



前川 結実さん
ANA自社養成パイロット

夢はトリプルセブンのパイロット

大自然を見下ろし、空駆ける仕事に憧れて

経済学部でゼミに打ち込んだ学生時代から、一転してパイロットへの道を選んだOGがいます。慣れないアメリカ生活、妥協は許されない飛行訓練。重圧と戦う日々と、それでもぶれない志をお聞きました。

ただいまアメリカで訓練中

まず、パイロットを志した動機を。

前川 高校時代に興味があつたのは客室乗務員です。大学入学後に航空業界の就職情報誌を読んで、外国のエアラインには女性パイロットがいることを知りました。カッコいいし、周囲があまりしていない仕事をしたかったので、いつしかパイロットが目標に。女性にとって新たな分野を切り拓けるといふ期待もありましたが、入社すると女性パイロットの先輩は既に数名おられました(笑)。尤も、先駆者というべき方はANAでは30代。やはり女性にとつてはこれからの分野です。

前川 大空を駆ける夢のあるお仕事ですね。大学2年の時、沖縄の無人島体験ツアーに参加したんです。1週間サバイバル生活を体験し、自然の魅力と大切さを改めて実感。将来は自然を守る仕事か、自然と触れ合う仕事に就きたいと思いました。自然を守る仕事なら、大学院で環境保全を研究してシンクタンクに就職、自然と触れ合う仕事なら、気象条件を判断しながら大空を飛ぶという意味でパイロットと考えていました。

乗客の命を預かるという重大な責任指摘されると、つい、むきになってしまった時期もありました。限られた時間内で最善の準備をしてフライトに全力投球しているけれど、自分が抱えているものを消化しきれない。でも夢があるから日本には帰りたくない。トイレに駆け込んで泣いたこともありました。

前川 どうやって気持ちを保つたのですか。訓練を一つずつクリアする度に、少しずつ性格が変化していったようですね。自信がついて気持ちに余裕ができると、パイパイや他の訓練生の意見にも素直に耳を傾けられるようになった。それが次の訓練に生かされるという好循環でした。

前川 もう一つ、高校時代の挫折を繰り返したくないという思いもありました。私は中学からやってきた陸上競技を、高校1年でやめたんですね。それほど良い戦績を残せなかったし、他大学受験も選択肢に入れていましたから。そして勉強に打ち込んだはずなのに、2年生で受けたセンター試験の結果がさんざんで、他大学受験も断念。随分気が早いですよね(笑)。3年生の時は抜け殻みたいになりました。だから社会人になってまた投げ出すことだけは、絶対に嫌でした。

私の現在の免許はエンジン1個のプロペラ機用なので、次はエンジン2個以上を目指すといった具合です。今回は計器飛行証明資格の学科試験を受けるために一時帰国しました。こうして必要な資格を取得した後、実際にお客様を乗せた飛行機でOJT(On-the-job Training)を行い、入社後5、6年でようやく一人前になります。最終的にはボーイング767などの旅客機の免許を取得する予定です。

アメリカ生活で辛いことは？

前川 今も訓練と勉強に追われる毎日ですが、最初はクラスの雰囲気になかなか馴染めないことが辛かったです。クラスメートの大半は男性。悩みがあつても相談しづらくて。空港、訓練所、ドミトリがすべて隣接しているという、閉じた環境も影響したのでしょう。

いま感じている重圧は、実地訓練開始後に数回行われる社内チェックです。適性でない判断されると、そこで訓練中止になります。私も焦りや奮えを感じることもあります。また、訓練は「パイパイ」と呼ぶ相手と組み、必ず2人1組で受けます。最初、訓練生は教官や先輩から「パイパイを捨てなさい」と言われるのですが、パイパイから自分の操縦について何か

に、怖じ気づくことはなかったですか。

前川 責任が重いからこそ意義のある仕事。実際に訓練を始めてからその責任を、今まで以上に身にしみて感じています。

パイロットを志したことについて、ご家族は何と？

前川 私は採用試験には落ちると思っていたので、両親には事後報告でした。父は、地元での就職を私に勧めたので、これは絶対に長い話し合いになるなと思っていたのに、受かったと言ったらむしろ大変興味をもってくれました。

涙を乗り越えた日々

将来は仕事と家庭の両立を

パイロットになるための訓練を簡単に教えてください。

前川 最初の1、2年は、エアラインビジネスの成り立ちを会得する地上研修です。私は羽田空港で発券や搭乗手続きなどを経験した後、事業用操縦士の国家試験の勉強を東京で行い、2011年6月からカリフォルニア州のペーカードフィールドという町で実地訓練中です。

操縦士免許は多様な資格に分かれているほか、飛行機の型式やエンジンの種類・個数などによる細かい限定が付きます。

夢を聞かせてください。

前川 近い将来の夢は、とにかく普通のパイロットになること。周囲のクルーとお客様から「この人なら大丈夫」と思ってもらえるような、安心感と安定感のあるパイロットになりたいです。もう少し先の夢は、仕事と家庭、育児を両立させること。女性として結婚、出産もした上でパイロットを続けたい。そのためには現状に満足しないようにしたいです。

志や夢を持ち続けることについて、読者にメッセージをお願いします。

前川 まだ25歳の私に偉そうなことは言えませんが、一つ一つのことに真面目に取り組んでいけば、ちゃんと評価してくれる人はいらるし、その努力は必ず普遍的な力につながっていく。だから人生では、やりたいことをやり抜くことが大事だと思います。「女性だから」とか他のことを理由にして、自分で限界をつくるのもつたない。私も訓練で切羽詰まった時は、「やりたいことをやっているんだ」という気持ちを大切にしています。

今後努力を続けます。卒業生の皆様、いつか空の上でお会いいたしましょう！

クラーク記念館25番教室にて



前野博紀さん
華道家

「人生に、花を咲かせましょう」

日本再生に取り組む 花の力の伝道者

NHK「ニュースウオッチ9」のスタジオ装花をはじめとするメディアや大型施設への生け込みから、アートディレクションや空間プロデュースなど、今や八面六臂の活躍を見せる前野さん。「花は、いけると人になる」という信条の通り、ダイナミックな生け花そのものの、朗らかで大きな人柄でした。

衝撃の出合いから
30歳にして花の道へ

華道との出会いを教えてください。

前野 大阪の老舗ホテルを退職し、ビジネスインストラクターとして東京本社勤務をしていた2000年11月です。草月の初代家元・勅使河原蒼風生誕百年記念いけばな展の招待券を買い、日本橋の高島屋にふらりと出かけました。そこで蒼風の「虚像」を再現した作品を目にして衝撃を受けました。まるで神様が、刀で「森」を縦に切り裂いたような姿。僕の思っていた生け花とは全然違うけれど、凄いかっこよさがあった。久しぶりに鳥肌が立ちました。作品の周囲ではいろんな人が感嘆して見入っている。肌の色、年代、性別、おそらく宗教の違いも越えて、そこにいる皆が「美しい」と感じていました。生け花の持つ力に圧倒された。

前野 当時の僕は仕事において、壁にぶつかっていました。十も二十も年上の人に向かって僕のような若者が研修の講師をしても、言葉に説得力がない。一方、花には大きな存在感、説得力があった。それから花や華道、蒼風について懸命に調べると、花を要として茶道を知り枯山水を知り、能を知って『風姿花伝』を読む

など世界が広がっていった。会社に勤めながら、草月流の稽古に通うようになりました。

趣味の域を超えて華道家への道を志された契機は何だったのですか。

前野 東京に来た父が「これだ」と思う仕事ができたら、その道一つで行けるように頑張れ」という言葉をくれました。数か月後、父は急逝しました。僕が哲学書や宗教書を読んで「ありか」を探していた頃です。ますます花にのめり込み、社員研修でも花に喩えた事例を話すようになりました。「野の花は、誰かに認められなくてそこにいるのではない。たまたま種が落ちて育ち、宿命的に生きていく。あなたも本当にやりたいことがあるのなら今の会社は辞めた方が、会社も無駄遣いしなくて済みますよ」とかね。そう言いながら、自分は花では食べられないと迷っていると、僕の話聞いたお蔭で会社を辞めましたという、感謝のハガキが会社に来るようになりました(笑)。もう、花が僕に問うてきたんですね。お金もブランドも捨てられないんですか。花に鉄を入れて命をいただくような思いで、僕も決断しました。残ったのが花でした。

そしてゼロからのスタート。

前野 三十路の男が履歴書を持って花屋

ら」と言ってくれました。僕という商品をきちんと説明すれば、たとえ無謀に思えることでも分かってもらえるという信念は、華道家になっても変わりません。

一人の華道家として関わる
東日本大震災からの復興

東北・南三陸町の子どもたちと共に作った「希望の塔」も反響を呼びました。

前野 草月流師範ではなく一人の華道家として何かしたくて、東北へ行きました。あんな凄惨な量の瓦礫を、この先何年も残したままにしてはいけません。広域処理には賛否両論あると思いますが、安全が確認された瓦礫は国民全体で何とかすべきです。そこで南三陸町の子どもたちに、塩害木に絵を描いてもらい、瓦礫と共に僕が生けたのが「希望の塔」です。出来上がると、子どもたちが「鯨だ!」と喜んだ。今は「旅するくじ」と題し、東北に起きた出来事と人々の思いを乗せて、全国各地で同様のオブジェを創作・展示する活動をしています。

その母体が、アーティストたちに声をかけて結成した「平成のはなさかじいず」。枯れ木ならぬ、がれきに花を咲かせましょうというわけです。今はゴミに

しか見えないものが、もう一度命を得る。「これは命だった」と伝える教育材料になるし、正しい情報を伝えることによって広域処理の推進にもなる。細野環境大臣も「思い」の花を咲かせることは、いま政治にも必要だ」と賛同してくださり、環境省の協力をいただいています。

今後どのような目標をお持ちですか。

前野 日本が疲弊している今は、国のために何かをしたい。鎮魂の花を生ける東北行脚も一人として続けていきます。来年あたりからは海外プロデュースを展開して、ルーブル美術館で個展を開くのが当面の夢です。生け花は、いわば「命の彫刻」ですから。近年は海外に出る若者が減少していると聞きます。自分の行動によって彼らに大志を抱くことの大切さを伝えられればと思うし、良心を学び、一つの物事に打ち込んでいく人間を生み出す同志社大学をもっと知ってもらえれば、とも思います。僕、そういう同志社が大好きですから。

ぜひ同志社でも生け込みをしていただきたいものです。本日はありがとうございました。

(東京・国連大学ビルにて)

まわりを始め、住まいも家賃2万8000円のアパートに引っ越しました。そのうち時給7500円の花屋さん、ラグビ―好きが縁で雇っていただきました。3年目、某有名華道家のスタッフになり、プロデュースや外部との交渉などを担当3年間勤めて卒業しました。それまでとは違う畑を耕したかったので、人間関係すべてを断ち切った再出発でした。

新しい志を教えてください。

前野 華道を突き詰めたい、海外に花の力を伝えたい、今度は自分で自分をプロデュースして、世の中の役に立ちたい。具体的なビジョンも立てました。半年後には必ず銀座と、故郷の福井県小浜で個展を開く。1年後には日本で一番大きな商業施設で大型の花をいける、3年後には東京で一番大きなお寺で献花をする。一番大きな商業施設といえば東京のミッドタウン。開業1周年記念に「桜の森」という企画を立ち上げて営業に行きました。向こうは賭けだっと思いますが、面白い企画だと言ってもらえました。「花には力があります」と言った手前、有言実行主義の僕は恥はかきたくないから頑張れた。護国寺での献花も同様です。熱

意を伝え続けるうちに、貫首様が「この寺があなたの将来の踏み台になるのな